

パターンⅢ【①平均法②先入先出法、加工費計算】

C工場では製品Zを製造し、製品原価の計算は累加法による工程別原価計算を採用している。次の【資料】に基づいて、総合原価計算表を完成させなさい。

なお、原価投入額を完成品総合原価と月末仕掛品原価に配分する方法は、第1工程は平均法、第2工程は先入先出法を用いること。

第1工程の途中で発生する正常仕損品の処分価値は172,800円、第2工程の終点で発生する正常仕損品の処分価値は184,000円である。なお、この正常仕損の処理は度外視法による。

【資料】

1. 生産データ

	第1工程		第2工程
月初仕掛品量	400 kg (60%)	月初仕掛品量	160 kg (40%)
当月投入量	2,800 kg	当月投入量	2,400 kg
合計	3,200 kg	合計	2,560 kg
差引：正常仕損量	200 kg	差引：正常仕損量	120 kg
月末仕掛品量	600 kg (80%)	月末仕掛品量	240 kg (60%)
完成品量	2,400 kg	完成品量	2,200 kg

2. 原価データ

	第1工程		第2工程
月初仕掛品原価		月初仕掛品原価	
原料費	433,200 円	原料費	0 円
前工程費	—	前工程費	617,280 円
加工費	518,400	加工費	179,000
当月製造費用		当月製造費用	
原料費	3,628,800 円	原料費	3,456,000 円

(注) ・ () 内は加工費の進捗度である。

・第1工程の原料費はすべて工程の始点で投入され、第2工程の原料費はすべて工程の加工進捗度(60%)の時点において投入される。

3. 加工費は直接作業時間を基準に予定配賦しており、各工程の予定配賦率及び実際直接作業時間は次のとおりである。

第1工程：予定配賦率	5,760 円/時間	実際直接作業時間	990 時間
第2工程：予定配賦率	7,500 円/時間	実際直接作業時間	800 時間

工程別総合原価計算表

(単位：円)

	第1工程		第2工程		
	原料費	加工費	前工程費	原料費	加工費
月初仕掛品原価					
当月製造費用					
合計					
正常仕損品		—	—		—
差引：月末仕掛品原価					
完成品総合原価					

参考メモ【仕掛品ボックス】

第1工程仕掛品－原料費

月初有高		当月完成	
当月投入		仕損品	
		月末有高	

第1工程仕掛品－加工費

月初有高		当月完成	
当月投入		仕損品	
		月末有高	

第2工程仕掛品—前工程費

月初有高		当月完成	
当月投入		仕損品	
		月末有高	

第2工程仕掛品—原料費

月初有高		当月完成	
当月投入		仕損品	
		月末有高	

第2工程仕掛品—加工費

月初有高		当月完成	
当月投入		仕損品	
		月末有高	